

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会します。

まず、委員会の活動について、事務局から報告をお願いします。

乾口教育政策課長。

○乾口教育政策課長 それでは、教育委員の活動について、ご説明いたします。教育委員会の活動状況の資料をごらんください。

9月1日から9月30日までの活動内容としましては、活動日、活動内容、活動場所、活動出席委員名として記載しております。

以上、簡単ではございますが、教育委員の活動の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 続きまして、委員の活動について、所感の報告をしたいと思います。

それでは、委員を代表して、谷元委員から報告をお願いします。

○谷元委員 初めに、12日に、関東地方に上陸した台風19号では、関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらしました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

さて、今月は、幼稚園、小学校の運動会や中学校の体育祭、小学生陸上競技大会、枚方英語村、小学校合同音楽会など、いろいろな行事がございました。

本日は2点、近畿市町村教育委員会研修大会と、関西外国語大学で開催されました枚方英語村について、報告いたします。

近畿市町村教育委員会研修大会は、10月11日、滋賀県の野洲市で開催されました。初めに、「新学習指導要領の目指すもの 資質・能力の育成とは」と題して、早稲田大学の藤井千春教授のご講演がございました。新学習指導要領では、持続可能な社会のづくり手となるため、多様な人と相互の個性を尊重し、生かし合い、協同的探求に参加、貢献できる資質・能力が必要とされる。そのために、主体的・対話的で深い学びの育成を目指しているということです。

教師には、三つのことが求められていると言われ。

一つは、子供たちの対話の主宰者となること。対話の主宰者とは、対話のファシリテーターであり、コーディネーターであり、サポーターである。子供のつぶやきを大切に、温かい仲間意識と教育環境づくりが重要である。

二つ目は、子供たちの感情を高めて、意欲と自信を形成させること。そのために、教師は感情の支援者になること。児童・生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。

三つ目は、子供と地域の大人とのつながりを持たせること。子供は実社会と行き来しつつ、社会の中で自立していく。教師の役割は社会との橋渡しであり、子供に地域でいい生き方をしている大人と出会わせ、かかわらせ、つながりを持たせる必要があると話されました。

実践発表では、竜王町の甲津和寿教育長が、「教職員の働き方改革と業務改善、子供たちの笑顔と教職員のやる気につながる働き方改革について」を発表されました。

甲津教育長は、学校の働き方改革を推進するというと、すぐに「やめよう、なくそう、へらそう」というこの三つの意見が出てくるが、これは働き方改革ではないと力のこもった口調で言われました。竜王町教職員業務改善ポリシーは、「教職員一人一人の働き方、意識改革による子供たちと向き合う時間の確保」であると。きらりと光る竜王の質の高い教育と、教職員の働き方改革をバランスよく進めている。教職員の自己改革として、勤務状況の記録と業務の振り返りにより、ワーク・ライフ・バランスを考えた働き方を工夫していると話されました。業務改善加速事業や共同学校事務室との連携、学校支援マネジャー等のスタッフの派遣など、校務支援やサポートは、枚方市でも既に行っているものでした。

具体的な取り組みとしては、単なる勤務時間の削減ではなく、ワークを充実させるためにこそ、充実したライフが必要であることを認識すること。教職員がみずからの超過勤務や持ち帰り仕事時間を把握・分析することで、省ける時間や効果的な業務のあり方について考えること。そのために、帰る時間の目標設定や帰りたい時間を明確にするホワイトボードの設置など、タイムマネジメントの意識を持たせるよう、細かいところに気を配りながら意識改革を進めておられるのが印象的で、大変参考になりました。

枚方市でも、働き方改革を進めているところですが、意識改革の第一歩は、一人一人がタイムマネジメントの意識を持つことではないかと考えます。教職員がやる気に満ち、子供たちの笑顔があふれる学校づくりを目指してもらいたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

次に、26日、土曜日、関西外国語大学で枚方英語村が開催されました。昨年に引き続き、ことしが2回目の開催となります。対象は、枚方市在住の中学生で、当日は54名が参加しました。初めに参加者全員でのアイスブレイクがございました。グループごとの自己紹介や誕生日を教え合うアクティビティでした。枚方市英語指導助手（NET）を中心に、関西外大の大学生や留学生とオールイングリッシュで交流、その後、参加した中学生は客室乗務員、キャビンアテンダントの体験や搭乗手続を搭乗カウンターで体験したり、ホテルのフロント係やお客さんになって、チェックインの体験をしたりしていました。初めは緊張していた生徒も、航空機内を再現した客室でのアナウンス体験が楽しくなったようで笑顔も見えてきました。さすが客室乗務員の輩出人数全国一位を誇る関西外大ならではの体験だと感じました。英語はグローバルな世界を生きていく上で必要不可欠な言語であり、世界をつなぐコミュニケーションの道具です。英語村での経験が英語の授業でも生かされるよう、またオールイングリッシュの授業が展開されるよう、指導内容の工夫が必要ではないかと感じました。参加した中学生たちには、この経験を英語の学習に生かし、英語を今以上に好きになって、英語が話せるグローバルな人に育ってほしいと思いました。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

本日の公開とする協議会は以上となります。